

VI 共同研究

本研究所は、現実の問題を解決するなかから新しい方法や理論を作って行くことを重視する研究方針を伝統的にとってきており、大学・官庁・企業・各種団体などとの共同研究に積極的に取り組み、多くの成果を挙げてきた。このため学問の枠にとらわれない自由な雰囲気醸成され、新しい研究領域が次々と開拓されてきている。

本研究所の教官と外部の研究者が、共同して行うこのような研究は、共同研究と呼ばれ、大学共同利用機関に改組転換される以前から広範な研究分野において、種々の様態で行われてきた。しかし、それが個人レベルで行われる場合には、統計数理の学問の性格から共同研究の成果が相手の研究者・機関にのみ帰し、わが研究所の貢献が社会的に認知されにくかった。

昭和60年の改組転換を機に、本研究所の研究者の立場を保護・強化しながら、このような共同研究を組織的に推進するとともに、大学などにある統計科学関連分野の研究者との研究協力を促進することを目的として、共同研究の制度が設けられ予算の裏付けを得た。統計数理研究所における共同研究制度は、例えていえば医学研究において病院の果たす役割を担うものである。共同研究は公募制を採り、所内外の委員からなる共同利用委員会の下に運営されている。

基礎理論関係、計算と最適化、時系列、調査理論、理工学関係、宇宙・地球科学、生物医学、人文・社会科学、環境科学の9専門分野にわたり、昭和60年度62件、61年度に76件、62年度に96件、63年度に106件、平成元年度102件、2年度98件、3年度99件、4年度117件、5年度131件におよぶ共同研究および研究会が行われている。その詳細は、統計数理研究所共同研究員名簿総合編(1994)を参照されたい。この冊子の研究課題の欄を見れば、いかに多くの研究分野で未解決の問題が統計的方法を必要としているかが分かる。

なお、詳細は、XI資料の「8. 共同研究」を参照されたい。